

竜ヶ崎二高だより No.10

令和2年2月28日発行

未知のものへの恐れ

校長 宮本 順紀

イギリスの作家 H.G.ウェルズの SF 小説に「宇宙戦争」というのがあります。発表されたのが1898年ですから、1世紀以上前の小説です。原題名は The War of the Worlds です。Worlds という複数形が使われているのは「地球人の世界」と「火星人の世界」の間の戦争を意味するからです。火星からの侵略者が地球に現れます。火星の三本足の兵器の熱線の人々は焼き払われます。そして黒い毒ガスも火星人は使い、イギリス軍はことごとく負けてしまいます。苦難を乗り越え、主人公はなんとか逃げ延びることができます。ロンドン郊外の小屋で物音を立てないようにしながら隠れます。侵略が始まって 15 日目に辺りが静まり返り、外に出てみると火星人たちは死に絶えていることがわかります。火星人たちの命を奪ったのは、古代から地球上に住み続けている病原菌だったということが説明されます。火星人は地球に来て、地球の空気を吸い、地球のものを体内に取り入れ始めた時から、滅びの運命にあったということです。

「宇宙戦争」は直近ではスピルバーグが監督し、トム・クルーズが主演を演じた映画になっています。舞台は大きく変えられているものの、物語展開は原作を踏襲したのになっています。古くは 1958 年にアメリカを舞台とした映画になっていますが、もっとも有名なのは 1938 年に今は亡き名優オーソン・ウェルズがプロデュースしたラジオドラマです。実際のニュース報道のように作られていたため、全米がパニックになったという話が残っています。

進化生物学者でノンフィクション作家のジャレッド・ダイヤモンドの『鉄・病原菌・銃』という本を書いています。「なぜヨーロッパ人がニューギニア人を征服し、ニューギニア人がヨーロッパ人を征服することにならなかったのか」という疑問に対し、1つの答えとして書いたそうです。結論として、決して人の能力の差ではないことが示されます。私も以前読みましたが、アメリカ大陸をヨーロッパ人が征服した際には、ヨーロッパから難破船などで漂着した人たちが病原菌を持ち込み、それで人々が弱ったところに、鉄と銃をもった人たちが入ってきたために容易に征服できたのだということを知って驚きました。病原菌が大きな文明を滅ぼすきっかけになることもあるということです。

中国の武漢から世界中に広がった新型コロナウイルスによる感染は、日本を含め拡大をどう防げるかが国際的な問題になっています。経済的にも大きな問題になっています。一方で、アメリカではインフルエンザが大流行で、その死者数はコロナウィルスに比べて非常に多く、1万2千人を超えているという推計もあります。死者数に比べてマスコミの取り上げ方が小さいのは、インフルエンザが、毎年流行するような、症状や対策について知らない人がいないウィルスだからかもしれません。一方でコロナウィルスについては知らないことが多く、しかも、感染していても症状が表れないまま別の人に感染させてしまう可能性があるからかもしれません。既知のものに比べて未知のものの方が恐ろしく感じるのは人の防衛のための本能かもしれません。

未知のものは恐ろしいと思います。しかし、無知はもっと恐ろしい。未知のものはまだ無限に存在していると思いますが、現代の人間には未知のものを既知のものに変えていく力があると信じています。無知から生ずるパニックを避けて、冷静に未知のものに向き合うことが必要だと思いました。



3年生を送る予餞会が行われました



1月31日（金）、予餞会が行われました。オープニングの有志によるダンスパフォーマンスでスタート、続いてお笑いコンビ「こぐれ」、「タイムマシーン3号」によるステージで会場が笑いに包まれました。休憩をはさんで、人間文化科の被服選択生徒により、自作したドレスのショーが行われました。調理選択生徒が男装してエスコート、工夫を凝らしたパフォーマンスによりステージを華やかに彩りました。最後に、前生徒会長の石塚さんがお礼の言葉を述べておよそ2時間にわたる予餞会が終了しました。



バスケットボール部が関東大会に出場しました！



2月5日（水）に県大会に準優勝して関東大会に臨むバスケットボール部の壮行会が行われました。宮本校長に続き、斎藤生徒会長らの激励の言葉を受けて、関口主将がお礼の言葉と意気込みを述べました。

関東大会は2月8日（土）・9日（日）、山梨県甲府市で行われ、初戦で神奈川県代表東海大相模高と対戦しました。応援ありがとうございました。



市役所主催の市民フォーラムに参加しました



2月16日（日）9:30～12:00、龍ヶ崎市立図書館2階鑑賞室において、「ワカモノ×図書館～みんなで考えよう これからの公共施設～」に本校の生徒2名がワークショップのメンバーとして参加しました。市長あいさつ、基調講演ののち「若者がもっと行きたくなる図書館の楽しい使い方」をテーマに行われたワークショップでは、本校生徒のほか流通経済大学の学生ならびにさいたま市の高校生と積極的な意見交換を行いました。本校は龍ヶ崎市の取り組みに積極的に関わっています。



りゅうがさきフューチャーセンターが街歩きイベントの中心として活躍しました



2月22日（土）13:00～16:50、町おこしを目的とした市政提言組織「りゅうがさきフューチャーセンター」と、各所で街歩きを企画している「茨城まちづくりプラットフォーム」が協力して、「まちづくりプラットフォーム in 龍ヶ崎～若い世代の「胎動」・高校生とまちを歩こう～」を実施しました。第1部は竜ヶ崎駅を起点に竜ヶ崎二高まで、9名の生徒が40名の参加者と街歩きを行いました。第2部は竜ヶ崎二高に舞台を移し、「日本一かつこよく、強そうな名前「龍ヶ崎」の由来」についての講演ののち、りゅうがさきフューチャーセンターの活動に参加してもらい、龍ヶ崎の街づくりについて一緒に考えました。